



沢地小だより

第6号 令和2年9月1日

～ 「自分の目標」と「他者への思いやり」 ～

今年度の夏休みは、あっという間に終わってしまい、猛暑が続いている中ではありますが、学校に子供たちの元気な声と笑顔が戻ってきました。

新型コロナウイルスの影響で、我慢することが多かった夏休みではないかと思いますが、短くてもいろいろな意味で思い出に残る夏休みになったことと思います。

夏休み明けの放送による朝会では、子供たちに2つの話をしました。

1つは「自分の目標を持って生活する」です。

夏休み明けという新たなスタートで、これからの生活についてそれぞれが「目標」を持って生活できることは素晴らしいことです。日々の生活の中で、様々な節目において自分を謙虚に見つめ、目標に向かい努力できる「きらきら輝く沢地っ子」を目指して欲しいと思います。

もう1つは「思いやりの心を持って生活する」です。

一人一人が違うけれども、一人一人がとても大切なかけがえのない存在です。今まで以上に自分を大切にしながら、他者への思いやりを持てる「やさしい沢地っ子」になって欲しいと思います。

今年度は6月からのスタートではありましたが、9月は1年間の折り返し地点です。一人一人が、自分の努力や成長の過程を振り返り、自己肯定感を高められるよう指導していきます。また、互いを認め合い、支え合える学校を子供たちと共に創っていきます。これからも御理解・御協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。



夏休み明け学級 朝の様子

～ コロナいじめは許さない ～

先日、萩生田文部科学大臣から、新型コロナウイルス感染症を理由とした差別や偏見について児童・教職員・保護者・地域の皆様にあてたメッセージが発せられました。（保護者や地域の皆様向けは学校ブログにも掲載してあります）

沢地小学校では、8月24日から30日を「いのちを考える週間」として、子供たちの発達段階に応じた「いのち」についての指導を様々な教材を用いて行ってきました。併せて、「コロナいじめ」についても指導を行っています。幸いなことに、現在、三島市内の学校では新型コロナウイルスに感染した方は出ていません。しかし、最近の状況を考えたときに、誰もが感染する可能性があることを否定できません。感染した人が悪いわけではないのに、日本だけでなく、世界中で新型コロナウイルス感染症を理由とした差別や偏見があることはとても悲しいことです。

子供たちには、自分や自分の家族が感染したり症状があったりした時に、友達にどのように対応して欲しいかを考えて行動することや、感染した人（友達）に対して、思いやりの気持ちを持ち、一日も早い快復を願い、復帰後には温かく迎えられる、やさしい子に育てて欲しいと思います。今後も、学校教育目標「共に学び 生きる やさしい子」を目指し、心の教育を推進していきます。